

## 燈影学園に於けるギャップイヤーボランティアの活動の状況

2015年8月 燈影学園（一燈園小・中・高）

当園は京都・山科の静かな山麓にある学校で、幼稚園から高校まで一貫した教育をしています。ギャップイヤーのボランティアの学生は2004年から受け入れを始め、2006-2008年の間を除いて毎年2名、今年までに16名の学生のお世話をしてきました。

最初の4名は男子でしたがその後は女子の学生が中心で、ボランティアの活動内容は；

- 1) 幼稚園の園児とのふれあい・遊戯
- 2) 小・中・高等学校での英会話の教員補佐
- 3) 社会貢献活動として地域住民を対象とした英会話の指導
- 4) 高校生と一緒にを行う作務（労働）です。

当園での学生たちは学校の敷地内にある寄宿舎で生活をします。そして一日の生活は祈りと汗と学びで構成されています。

一日は「祈り」で始まります。具体的には毎朝・礼堂で静座・瞑想しながら宇宙の営みや自然の摂理に感謝します。食事は全生徒と一緒に黙食をします。黙食とは捧げてくれる食物の命に感謝しながらいただく祈りの食作法です。

「汗」とは作務（労働）を通じて行う学びで、具体的には学校の厨房で給食の手伝いをします。社会生活に必要な人との関係性を作務の中で感じる学習です。

「学び」には日本文化の学びがあります。学校では日本語・書道・日本舞踊・能・剣道・少林寺拳法などを学んでいて、週末は京都市内の寺社巡りをし、春・夏の学校休暇には日本の各地を旅行しながら日本文化の学習をしています。また、学校での活動とは別に月1回、第3日曜日に「British House」と題して昼食を交えながらそれぞれの文化を語り合っ

て地域社会の方々と交流をしながら国際理解を深めています。

以下は昨年（2014年）ボランティア活動をしたオリビア・ピーコックさんが燈影学園での生活に溶け込んでいく様子を綴ってくれた随筆からの文章です；

「一燈園での生活は私にとって至福の時であり、天香さん（学園創立者）の教えを受けながら、作務での学習を通じて日本の伝統的な生活に驚愕しています。しかし3か月前までは文化の違いを意識して不思議にさえ思ったことも、今ではそれらのことが自分の日常生活の一部として溶け込むようになり、自分がここでの社会の一員であることに楽しみを感じています。（抜粋）」

（参考）添付の写真は、2013年度及び2014年度の活動の様です。

一燈園での活動の様様

